

第5学年 国語科学習指導案

第5学年2組 30名
授業者

第5学年3組 29名
授業者

第5学年分科会がめざす児童像

目的や意図に応じて話し合い、自分の思いや考えを広げることで、学び合う楽しさを見いだす児童

1 単元名

心が動いたことを三十一音で表そう

2 単元の目標

(1) 「知識及び技能」に関する目標

語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・感想や意見を伝え合い、短歌についてよいところを見付けることができる。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

学習の見通しをもって、全体の構成や書き表し方に着目して推敲し、短歌を作ろうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ ② 情報と情報との関連付けの仕方を理解して使っている。(2)イ	① 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア ② 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。B(1)オ ③ 「書くこと」において、感想や意見を伝え合い、よいところを見付けている。B(1)カ	① これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、粘り強く全体の構成や書き表し方に着目して推敲し、短歌をつくらうとしている。

4 単元について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における「思考力、判断力、表現力等」の「B書くこと」(1)オ「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。」である。これまで児童は、自分の書いた文章を読み返して推敲することで、間違いを正したり、よりよい表現に直したりすることを学習してきた。それらの経験を踏まえ、本単元では、「言葉の力」を「発見や感動を短歌で表す」と設定している。短歌を作って友達と鑑賞し合う活動を通して、自分の考えや感じたことを明確に表した表現になっているかということや、読み手にとって理解しやすいものになっているかということを確認する力を身に付けさせたい。

5 児童の実態

5年生83名に、「鉛筆で書くことの抵抗感」や「キーボードで入力することの抵抗感」、「発表することについて」、「Chromebookで発表することについて」のアンケートを実施した。

① 鉛筆で書くことの抵抗感

(質問1) 自分の考えを鉛筆でノートに書くこと

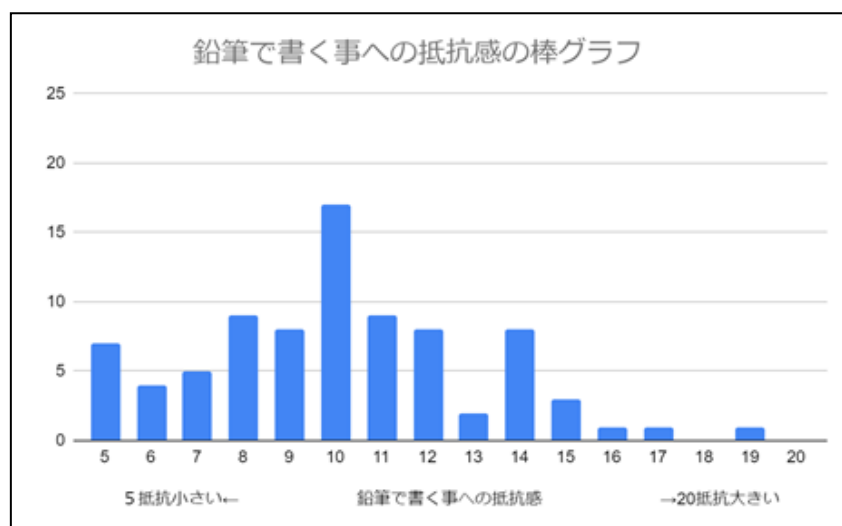
(質問2) 国語の学習や行事の後で、感想文や作文を書くこと

(質問3) 国語の学習などでワークシートに書くこと

(質問4) 社会科や総合の学習で、画用紙などに新聞やパンフレットをかくこと

(質問5) 音楽や図工の授業で、作品の感想をワークシートにかくこと

上記の5つの質問項目で、「1. とても好き」を1ポイント、「4. とても嫌い」を4ポイントとして合計した値5（鉛筆で書くことに対する抵抗感が少ない）～20（鉛筆で書くことに対する抵抗感が多い）を基に、鉛筆で書くことの抵抗感を調査した。5年生全体の平均値は10.0ポイントとなった。全体的に鉛筆で書くことに対する抵抗感は少ない児童が多いと考えられる。抵抗感が大きい児童は、「書くことが苦手、面倒。」「上手に書けない。」などの理由を挙げた。



② キーボードで入力することの抵抗感

(質問1) 自分の考えを Chromebook のキーボードで入力すること

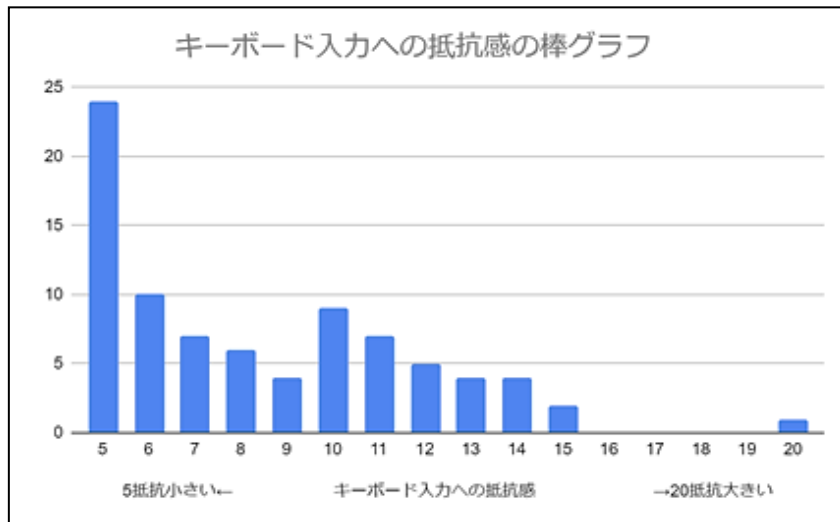
(質問2) 国語の学習や行事の後で、感想文や作文をキーボードで入力すること

(質問3) 国語の学習などで、自分の考えをキーボードで入力すること

(質問4) 社会科や総合的な学習の中で、Chromebook で新聞やパンフレットを作成すること

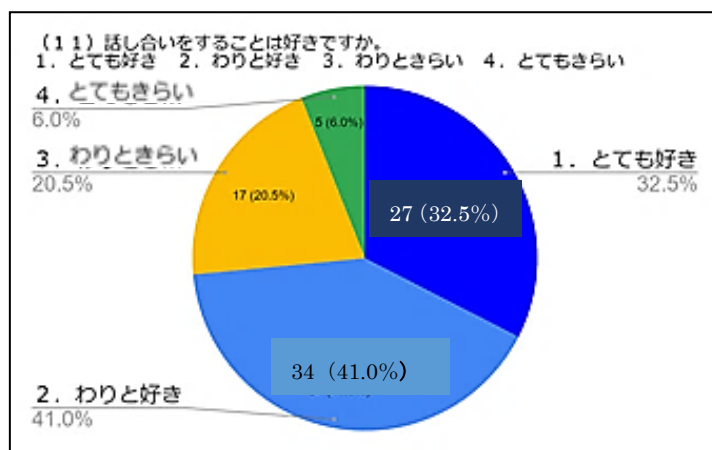
(質問5) 音楽や図工の授業で、作品の感想をキーボードでワークシートにかくこと

上記の5つの質問項目で、「1. とても好き」を1ポイント、「4. とてもきらい」を4ポイントとして合計した値5（キーボードで入力することに対する抵抗感が少ない）～20（キーボードで入力することに対する抵抗感が多い）を基に、キーボードで入力することの抵抗感を調査した。5年生全体の平均値は8.4ポイントとなった。全体的にキーボードで入力することへの抵抗感は非常に少ない児童が多いと考えられる。その要因として、タイピングソフトを使って文字入力をする機会を、週に1度設けて練習できるように指導したことが挙げられる。

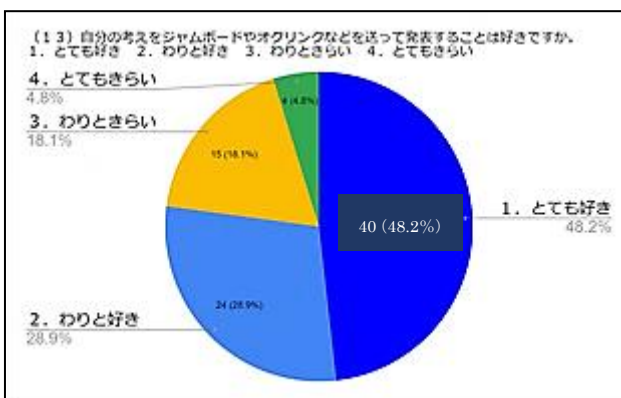
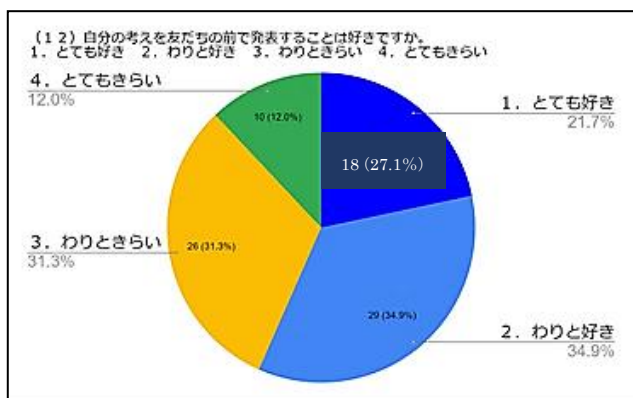


- ①②の結果より、5年生は全体的に書くことに対する抵抗感が少ない児童が多いことが分かる。
- 個人毎の数値で比較すると、鉛筆で書くことに対する抵抗感よりもキーボードで入力することに対する抵抗感の方が少なく感じる児童とどちらの抵抗感も少ない児童の合計は8割となった。キーボードで入力する抵抗感が大きい児童は、「ローマ字を覚えてない。」「入力するのに時間がかかる。」という理由を挙げている。

③ 発表することについて

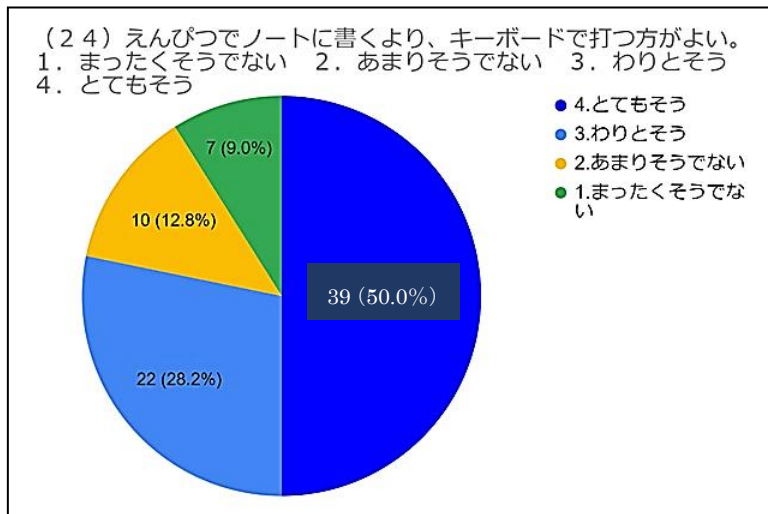


- 話し合いをすることが好きな児童の割合は73.5%となった。理由としては、「友達と話し合うことで自分の考えに自信をもつことができる」、「友達の考えとの違いを見付けることで、新しい考えを見付けることができる」等を挙げる児童が多くいた。話し合いをすることが苦手な児童の理由としては、「何を話してよいか分からない。」「自分の考えが思い浮かばない。」など、思考力に関係することと、「間違っていたら恥ずかしい。」「自分の考えに自信がない。」など、自分の意見を表明することの抵抗感が強いことの両方が挙げられる。



・自分の考えを友達の前で発表することが好きな児童は56.6%、自分の考えをJamboardやオクリンクなどを使って発表することが好きな児童は77.1%となった。この結果から、友達の前で自分の意見を発表する方が、ICT機器を活用した発表よりも抵抗感を感じる児童が20%前後多くいることが分かった。これらの児童にその理由を追加でアンケートを取ってみたところ、「友達の視線を集めている状況が苦手」、「緊張して発言ができなくなる」、「発表資料の訂正がICT機器の方がしやすい」、「自分の考えが正解しているか不安」等の理由が挙げられた。ICT機器を活用した発表を積極的に取り入れていくことで、より多くの児童が自分の考えを発表できるようになっていくと考えられる。一方で、5%前後はどちらの発表であっても抵抗感を強く感じる児童もいる。何を書いていいかわからないと感じる児童に対して、作品を読み合う観点を確実に確かめる時間を設けることで、全員が自分の思いや考えをもてるようにしていく。

④ Chromebook で発表することについて



アンケートの結果、鉛筆でノートに書くより、キーボードで入力する方がよいと感じている児童の割合は78.2%になることが分かった。

6 子どもの思いや考えをつなげるICT活用の意図

< ICT活用によって、ねらう効果 >

【オクリンク】

- ・複数の短歌を、区切れ毎に分解したカードにし、組み合わせる活動を行う。オクリンク上での操作が簡単で、提出機能で一人一人の考えが共有できる。
- ・気持ちを表す言葉をカードにして、提示された短歌を組み合わせる活動を行う。自分でカードを簡単に

作成することができるので、自分の気持ちにより近い感情で短歌を味わうことが可能である。また、すぐに全体に共有することができる。

【Jamboard】

- ・ 1枚のシートに一つの短歌を提示し、付箋に感想を書かせる。一人ひとりの意見を可視化できるとともにグループ内での共有がリアルタイムで可能になり、話し合いの深まりにつながる効果を期待する。
- ・ ページを切り替えることができるので、自分の興味関心に応じた短歌を自由に選ぶことが可能である。また、短歌のおもしろさや表現の工夫などについて、じっくりと考える時間が個に合わせて確保できる。
- ・ 自分や友達の見解について、自由に閲覧し比較したり参考にしたりすることができるので、より広くより深く短歌を味わうことができる。

7 単元の指導と評価の計画（全5時間）

次	時	○主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価 □情報モラルに関する指導 ■ ICT活用
第一次	1	○単元のねらいを確かめ、見通しを立てる。 ○「心が動く」様子を表す言葉や短歌の特徴に注目して、興味をもつ。	◇日常の出来事から、気持ちを表す言葉を十分に味わわせる。提示した短歌と組み合わせ、「心が動くこと」を感覚的に理解させる。 ■ オクリンクを使用し、提示した言葉と短歌をつなぎあわせる。 ◆気持ちを表す言葉と短歌を組み合わせようとしている。【思①】（オクリンク・観察）
	2 (本時3組)	○提示された短歌の情景やおもしろいと思ったところなどを交流する。	◇それぞれの短歌について、どのような表現の工夫がされているかを確認する。 ■ 興味関心がある短歌を選び、自分なりに考えたおもしろさや工夫をJamboardに書き込む。 □相手を意識して、言葉の選定に気を付けさせる。 ◆短歌のおもしろさや工夫に気付いている。【思③】（Jamboard・発言）
第二次	3	○日常生活の中から題材を集め、短歌を書くことを決める。	◇楽しかったことや驚いたことなど、印象に残ることについて、想起させる。 ◆日常生活の中から題材を集めようとしている。【態①】（観察）
	4	○連想して集めた題材について、短歌を作る。	◇教科書や教師が提示する作品を参考にしてよいことを助言する。 ■ Jamboardに書いて提出する。 ◆集めた題材を元に、表現の工夫を意識して書いている。 【知②態①】（Jamboard・観察）
第三次	5 (本時2組)	○感想を伝え合い、友達の作品のよさに気付く。	◇感想や意見を伝え合い、作品のよさについて考察させる。 ■ 興味関心がある短歌を選び、自分なりに考えたおもしろさや工夫をJamboardに書き込む。 □相手を意識して、言葉の選定に気を付けさせる。 ◆友達の短歌のよさや工夫に気づき、味わっている。【思③】（Jamboard・観察）

	○作成した短歌集を音読の宿題で活用する。	
--	----------------------	--

8 本時（2／5時）5年3組

(1) ねらい

短歌について、表現の特徴や工夫を見付けることができる。

(2) 展開

	○具体的な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT 活用
課題把握	○作品例の短歌の読みを確かめる。 ・三十一音のリズムになっている。	◇既習の学習から本時のめあてを確認する。
	めあて 短歌を読んで感じたことから、表現の工夫を伝え合おう。	
展開	○作品例を読み、短歌から感じる情景や作者の思い、感想等を考える。 ・ブランコに乗っていると気持ちが落ち着いたことが伝わる。 ・ブランコが人のように表現されている。 ・夏の暑さを身近に感じている様子。 ・夏がとまることはないけど、すぐそこにある様子が伝わる。 ・声が小さくなったことで、参観日の緊張が分かる。 ・素直になりたいのになれない気持ちがよく分かる。 ○自分がよいと感じた作品についてグループで話し合う。 ・友達の意見で、この作品のよさがさらに分かった。	◇興味や関心をもった詩から、自分の感想を Jamboard に書き込んでいく。 <input checked="" type="checkbox"/> 1枚のシートに1つの短歌を示すことで、興味関心に応じて、短歌を選択し自分の意見を書き込む。 <input type="checkbox"/> 相手を意識して言葉を選定することに気を付けさせる。 ◆短歌の特徴やおもしろさを自分なりに見付けている。【思③】（Jamboard・発言） ◇グループ内で、感じたことを共有し、作品のよさをさらに深めさせる。
振り返り	○表現の工夫について確かめる。 ・物が人のように例えられている。（擬人法） ・文末が先にきている。（倒置法） ・話し言葉が入っている。 ・「したこと」が書かれている。 ・「思ったこと」を直接書いてない。 ○振り返りを発表する。 ・短歌には、たくさんの工夫があつて、いろいろな技法が組み合わさっている。 ・工夫が分かると、短歌のよさもより伝わる。	◇表現の工夫があることによって、作者の感じたことがより鮮明に強く伝わってくることに気付かせる。 ◇学んだことについて、気付いたことや感じたことを Jamboard に書かせる。

<本時の観察の視点>

- ・ICT機器を活用することによって、自分の興味関心に応じて学習を進めながら短歌の特徴を捉えられたか。

9 本時（5／5時）5年2組

(1) ねらい

作った短歌を友達と読み合って感想を伝え合うことができる。

(2) 展開

	○具体的な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価 □情報モラルに関する指導 ■ ICT活用
課題把握	○作品を読み合う観点を確かめる。 ・どんな気持ちを込めたのかを考えてみたい。 ・体言止め、比喻、擬音語、字余りなど工夫をしているところを見付け、そこに込められた気持ちやよさを考えたい。	◇観点は黒板に掲示し、感想を書く際に参考にできるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて 短歌を読み合い、よいと感じたことを伝え合おう。 </div>		
展開	○作品を読み合い、感想を伝え合う。 ・○○という言葉を手言止めにしていることで嬉しい気持ちがより強く伝わってくる。 ・擬音語から、綺麗な風景に感動したことがくわしく伝わってきた。 ・比喻で表現されているのが、おもしろく感じた。 ○よいと感じた作品について、グループで話し合う。 ・自分には気付かなかったよさが分かった。 ・さらに深く作品のよさが味わえた。	■Jamboard 1枚のシートに一つの短歌を示し、付箋に書かせる。興味関心に応じて、短歌を選択し自分の意見を書き込む。 ◇作品は、作者名を伏せて提示する。 ◇他グループの作品について感じたことを、観点を基にJamboardの付箋に書き込む。 ◇1つのグループについて書き終わったら、別のグループについても書いてよいことを伝える。 □相手を意識して、言葉の選定に気を付けさせる。 ◆友達の短歌を読み、観点を基に良いところを見付け。書くことができる。【思③】 (Jamboard・観察) ◇付箋に書かれた意見をもとに、作品のよさをより深める。
振り返り	○自作した短歌に対する感想を読み、感じたことや気付いたことを振り返る。 ・自分の思いが、短歌を通して友達に分かってもらえてうれしかった。 ・気付いてほしかった気持ちがあまり伝わらなかった。もっと工夫してみたい。	◇短歌に込めた思いを記述したJamboardと、友達に感想を書き込んでもらったJamboardと比べて見ることで、思いが伝わっているのかを確かめさせる。 ◇学んだことについて、気付いたことや感じたことをJamboardに書かせる。

<本時の観察の視点>

- ・ICT機器の活用は、すすんで自分の考えを表現する上で効果的であったか。
- ・Jamboardでの意見交流を通して、短歌で表現することのよさをより深く感じ、自分の作品をよりよくしようとする姿が見られたか。